

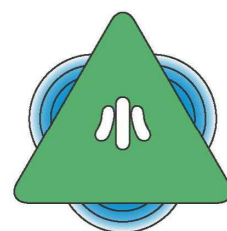
鳥海の子

～明るく・かしこく・たくましく～

令和5年度 学校報 No.15 文責 校長

コミュニティ・スクールだより

由利本荘市立鳥海小学校 令和5年 7月24日



大雨が続き、県内各地で水害からの復旧活動が進んでいます。三連休中から数日間も大雨、土砂災害警報が出され、不安ななかで過ごされている方も少なくないことでしょう。被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧を願います。

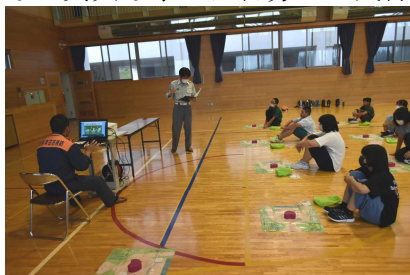
鳥海小学校周りは、幸い変わることなく学校生活を送ることができています。

明日7月25日(火)から8月23日(水)まで、ほぼ1ヶ月間のお休みになります。

子どもたちには夏休み前集会で、夏休みは自分、一人一人のパワーアップの時として「自分からあいさつ」「よりよい自分へのチャレンジ」をがんばってほしいこととお話しました。

救命講習で命を学ぶ! ～6年生心肺蘇生に挑戦～

7月12日(水)に、由利本荘市消防署鳥海分署の方を講師にお招きし、6年生が救命講習を受講しました。もしも倒れている人がいた場合の呼吸は真横から胸の動きを見て確認できること、胸骨圧迫の練習、AEDって何?など6年生の一人一人が命を救うための具体的な内容に真剣に取り組んでいました。「自分でも命を救えることができる。」「一番の失敗はほしくないことで、自分にできる、できないではなく、自分から行動できるようになりたい。」など真剣な学びは自分への気付きに結び付いていたようです。



たくさん実りますように!～3年生・4年生 そばの種まき体験～

雨天のため21日(金)に延期して、3年生、4年生のそばの種まきを、直根学習センターにて、直根栄寿会、鳥海サポーターズ倶楽部、CSコーディネーターのみなさんにご協力いただき実施することができました。この日に向けて、3年生・4年生は「そば」について調べ、5日のわくわく集会では全校に「そばクイズ」を紹介していました。いざ、実際のそばの種をさわり、ばらまきで種をまいて地元のそば、自分たちのそばに思いを募らせました。夏休み明けの一面の白い花が楽しみです。



安全・安心な生活のために 家庭内のおしゃべりは大切

7月14日に矢島・鳥海地区生徒指導研究協議会総会が開催されました。本地区の小学校・中学校・高等学校と家庭、地域社会が協力して児童生徒の生徒指導の充実を図ることを目的としています。この会で、それぞれの学校の生徒指導主事から令和5年度の生徒指導の状況が報告されました。矢島地区でも鳥海地区でも小・中学校が連携してメディアコントロールチャレンジ期間(矢島地区ではアウトメディア期間)を実施して、家庭に協力をいただき、児童生徒のよりよい生活習慣づくりに取り組んでいることが分かりました。また、由利本荘警察署生活安全課少年育成支援官の伊東**さんから令和5年度における管内の様子について情報提供がありましたので、その一部をお知らせいたします。

- ・コロナウィルス感染症が5類に移行してから、子どもたちの活動が活発に広範囲になっている。特に中学生から高校生はネットを通じて知り合ったり、他市の同じ部活動の人とやりとりしたりして、秋田駅で合流して問題行動や非行行動に巻き込まれている例がある。
- ・外泊に対して、保護者の認識、心配の差がある。基本となるのは家庭内の会話、小学生からの日々の積み重ねである。それが、高校生になったときの生徒自身の判断につながっている。
- ・万引き事案が増加している。子どもの持ち物が保護者の知らないところで増えていても保護者から「それはどうしたの?」「誰からもらったの?」など問いたださない場合が背景として共通している。子どもが物を手に入れる場合に欲しいときに大人に買ってもらうという経験が多くなっているようだ。自分の欲しいものがあつたときに、自分のお小遣いを貯めて買うという経験が少なくなっているのでは。
- ・ネット事案が様々発生している。保護者のお下りのスマホにクレジットカードのデータが残っていたためにそのカードデータで課金したという例もある。クレジットカードの現物が無くてもカードデータを把握するとカードを所持していることと同じである。
- ・管内の某中学校でネット依存度チェックアンケートを実施したところ、かなり高い割合で依存している結果だった。SNNなどで返信がないだけで「自分は嫌われている」「相手に何かイヤなことをしたのだろうか」と不安を高める生徒が目立った。児童生徒の自己有用感を高めて欲しい。

きっと分かっているはず・・・と後回しするのではなく、当たり前のように家庭内でおしゃべりができていることが、子どもたちの成長の安心・安全の一歩だと思いました。

失敗しても立ち直る力を！ 令和5年度由利本荘市特別支援教育だより「広がる輪」令和5年7月5日発行より引用

生活する中で起こりうる失敗に対し、立ち直る力を付けていくことは、子どもたちの自立に向けて欠かせないことの一つです。失敗からの回復力を育てるためにはどうしたらよいのでしょうか。

回復する力を
阻止するもの

- ・苦手意識
- ・過保護
- ・幼少期からの手厚過ぎるサポート

失敗を恐れないことを意識する。周囲の大人が、失敗を避けようとして手厚過ぎるサポートをすると、回復する力を伸ばす機会を逃してしまう。

回復する力を
育てるもの

- ・自己肯定感
- ・問題解決力
- ・意識の変換

「失敗したっていい。」「失敗も勉強」と思える意識をもつことが大切。失敗したときに周囲の大人も肯定的に受け止めていく。

失敗をどう次につなげるか？

①**自分の存在**：「存在」を決して否定しない。「失敗した自分≠ダメな自分」をきちんと教える。

②**言動**：行動や発言が悪かったら、どんな表現の仕方がよかったのかを一緒に考える。

③**能力**：知らなかった、またはできなかったのなら、スキルを身に付ける機会をつくる。

特別支援教育に限ったことではなく、失敗を恐れてしまう傾向は、最近特に子どもにも大人にも多く見られるように思います。失敗した事実を認めて、失敗の原因と対策を考えることができれば大きな学びになるはずです。そして、失敗しても認め合える学級、失敗してもそれを話して相談できる信頼関係づくりが何より大切だと考えます。

上記について職員で確認しました。夏休み中、ご家庭でも失敗を子どもの学ぶ機会として後押ししていただければ幸いです。